

<報告・記録>

日本の性教育について

中間 實 徳

東亜大学 医療学部 医療工学科 獣医看護学コース
nakama@c-able.ne.jp

《要 旨》

最近、新聞やテレビで性教育の後れや問題が報道されています。本記事はこれらを基に、学生に踏み込んだ性教育や性感染症について説明したいという気持ちで書きました。文部科学省の中学校学習指導要領（平成29年告示）の保健体育編のエイズ及び性感染症の予防についての紹介、新聞に掲載された記事や「14歳からの生物学」（オランダのサリー・ヒル著）の訳本（2020年9月白水社出版）およびインターネットの公益財団法人・性の健康医学財団のホームページによる性感染症について紹介したものです。

キーワード：日本，学校，性教育，性感染症

最近、日本の教育機関での性教育の後れが指摘されています。文部科学省の中学校学習指導要領（平成29年告示）の保健体育編のエイズ及び性感染症の予防について、「エイズ及び性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていることから、それらの疾病概念や感染経路について理解できるようにする。また、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることを理解できるようにする。例えば、エイズの病原体はヒト免疫不全ウイルス（HIV）であり、その主な感染経路は性的接触であることから、感染を予防するには性的接触をしないこと、コンドームを使うことなどが有効であることを知らせる。なお、指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である。」と謳われています⁽¹⁾。2021年1月27日の朝日新聞には「緊急避妊薬・人生を守るため市販を」という記事⁽²⁾がありました。また2022年10月4日の同新聞の「正しい性知識・子どもは求めている」の記事を書かれた「包括的性教

育」提言・有識者会議座長の佐藤拓代氏の記事によると、日本の性教育は「国際的なスタンダードからも大幅に後れを取っている」と指摘されています。また、提言では、「生殖器や性交を取り扱うことを説明する必要がある」とも訴えています⁽³⁾。

動物では性成熟に達すると、雄は発情した雌を求めて性行為を行うという動物本来の行動をします。しかし、人間は理性でもって結婚という段階を経て性行為を行うのが一般的です。ところが、性情報の氾濫や社会状況の変化から、この歯止めも効かなくなっており、望まぬ妊娠に悩む女性や性暴力等による妊娠の人工中絶や性感染の拡大など多くの問題が生じています⁽²⁾。女性にとって、このような望まない妊娠は人工中絶をするにしても、また妊娠を維持して分娩するにしても、その人の人生に精神的、身体的および経済的に大きな負担となります。

私は大阪の大学勤務中、日本不妊学会関西支部評議員をしており、泌尿器科や産婦人科の医師や動物を含めた繁殖学の学会に関わりを持っ

ていました。東亜大学では動物繁殖学も教えています。

「14歳からの生物学」(オランダのサリー・ヒル著)を監訳された松田良一先生(東京大学名誉教授・東京理科大学教授)と岡本哲治先生(広島大学名誉教授・東亜大学教授)の訳本(2020年9月白水社出版)は、オランダの中学生向けの本ですが、その第4章生殖には、男女の性器の図やコンドームの装着法など避妊法の具体的な方法を図解で示しています⁽⁴⁾。

一方、日本では性感染症が蔓延しており、特に梅毒は人命にも関わる恐ろしい性病です。淋病に感染した男性は結婚後に子どもが出来ないという事実(男性不妊症の一原因)があります。性病を正しく理解し、感染しないように注意する必要があります。

以下に日本の性感染症を纏めた記事が公益財団法人・性の健康医学財団のホームページに出していましたを紹介します⁽⁵⁾。

性感染症は複数の感染を起こすことがあります。また、そのような時にはエイズ(HIV)のように免疫が低下する疾患に罹患しているかどうかを念のためチェックする必要があります。性感染症を思わせる症状があった時は、速やかに検査をすることが必要です。しかし、無症状の事も多いため、性感染症に罹患した可能性がある場合は症状の有無にかかわらず受診・検査を受けるようにしたいです。ただ、HIV感染のように潜伏期が長く、検査結果が陽性に出にくい時期のあることもあり、検査結果が陰性であっても一定期間をおいて再検査をすることが望まれます。治療が中途半端になると再発を繰り返したりすることがあるので、自己判断で治療を中断しないようにしましょう。本人の検査結果が陽性の場合には出来るだけパートナーの検査を行い、必要であれば共に治療を行うことが必要です。

以下に各疾患の概要を説明します。

(1) 梅毒(Syphilis)

病原体：梅毒トレポネーマ

感染経路：性的接触を介する皮膚や粘膜の病変との直接接触

潜伏期：約3週間

症状：感染した部位(性器、口など)に赤色の堅いしこりやただれができ、近くのリンパ節が腫れる(第1期)。その後3~12週間くらいの間に、発熱、全身倦怠など全身症状とともに、皮膚に様々なタイプの発疹が現れ(第2期)、さらに10~30年の間に心臓や血管、脳が冒される(第3,4期)。

診断：病変部から病原体を確認(顕微鏡観察)、あるいは血液による抗体検査

治療：抗菌薬(主としてペニシリン系)

放置すると第1期から2期、3・4期へと徐々に進展する。精神神経異常、死に至ることもある。

母体の感染により、出生児が先天梅毒になることがある。

(2) 淋菌感染症(Gonorrhoea)

病原体：淋菌

感染経路：性的接触を介する粘膜との直接接触

潜伏期：2~7日

症状：男性では排尿時痛と濃尿、女性ではおりものや不正出血あるいは症状が軽く気づかないことも多い。咽頭や直腸の感染もあるが、自覚症状がなく気づきにくい。

診断：性器、尿道からの分泌物や口腔などから病原体分離培養、あるいは核酸検査(PCR)。

治療：各種の抗菌薬に対して耐性率が高くなっているが、有効な抗菌薬もある。

放置すると不妊の原因になることがある。感染した母体より出産した新生児が淋菌性結膜炎になることがある。

(3) 性器クラミジア感染症

(Genital chlamydiosis)

病原体：クラミジアトラコマティス

感染経路：性的接触を介する粘膜との直接接触

潜伏期：1~3週間

症状：男性では排尿時痛や尿道掻痒感、女性では症状が軽く無症状のことも多い

診断：性器、尿道からの分泌物や尿、口腔内から抗原検出や核酸検査(PCR)

治療：抗菌薬(マクロライド系、ニューキノロン系が中心)

放置すると不妊、流産・死産の原因になることがある。

(4) 性器ヘルペス (Genital herpes)

病原体：ヘルペスウイルス

感染経路：性的接触を介する皮膚・粘膜の病変との直接接触

潜伏期：2～10日

症状：性器の掻痒，不快感ののち，水泡，びらん

診断：病変部からウイルス分離，抗原検出や核酸検査 (PCR)

治療：抗ヘルペスウイルス薬 (アシクロビル，バラシクロビルなど)

放置すると痛くて放置できるものではないが，放置しても2～4週間で自然に治る。ただし再発を繰り返すことが多い。

(5) 尖圭コンジローマ

(Condyloma acuminatum)

病原体：ヒトパピローマウイルス (6型，11型が多い) 注：子宮頸がんは16型，18型感染が多い。

感染経路：性的接触を介する皮膚や粘膜の病変との直接接触

潜伏期：3週間～8ヶ月

症状：性器・肛門周囲などに鶏冠様の腫瘤

診断：病変部の形態の観察，病原体の核酸検査 (PCR)

治療：切除，レーザー，クリーム (イミキモドクリーム) など

放置すると20～30%は3ヶ月以内に自然治癒，悪性転化あり。

(6) 膣トリコモナス症

(Trichomonas vaginalis infection)

病原体：膣トリコモナス原虫

感染経路：尿道や性器からの分泌物との接触 (性的接触のほかに，下着・タオルなどを介しての感染)

潜伏期：不定

症状：男性は自覚症状のないことが多い。女性は自覚症状に乏しいが，おりものの増加，外陰・膣の刺激感やかゆみ。

診断：性器・尿道からの病原体検出，病変部の顕微鏡観察。

治療：メトロニダゾール

放置すると再発・再燃する。放置しても治ることはない。

(7) ケジラミ症

(Pthirus pubis (Hair lice) infection)

病原体：ケジラミ

感染経路：性的接触を介する陰股部，陰毛との直接接触，衣類・寝具などを介する間接的感染もある。

潜伏期：不定 (1～2ヶ月が多い)

症状：寄生部位 (主に陰股部) の掻痒

診断：皮膚・陰部・毛髪などの虫体や卵の確認

治療：剃毛，フェノトリンパウダーあるいはシャンプー

放置すると症状の継続あるいは悪化。放置しても治ることはない。

(8) 性器カンジダ症 (Genital candidiasis)

病原体：カンジダ属の真菌

感染経路：性的接触を介して伝播しうが，必ずしも発症しない。

潜伏期：不定

症状：男性では症状を呈することは少ない。女性では外陰部の掻痒とおりものの増加。カンジダを保有しているのみの場合もある。

診断：顕微鏡観察等による病変部からの胞子や仮性菌糸の検出。病原体の培養。

治療：抗真菌剤の錠剤や軟膏・クリーム，経口薬，放置すると症状の継続，再発，再燃。

放置しても治ることはない。

(9) B型肝炎 (Viral hepatitis type B)

病原体：B型肝炎ウイルス

感染経路：血液や体液との直接接触

潜伏期：約3ヶ月

症状：発熱や全身倦怠のあと，黄疸 (1～2%で劇症肝炎)。無症候の場合もある。

診断：血液中の抗原，抗体の検出，病原体の核酸検査 (PCR)

治療：予防にはワクチンが有効。抗ウイルス薬・インターフェロンなどが用いられる場合もある。放置するとキャリア化して，慢性肝炎，肝硬変，さらに肝癌へと進展することがある。

(10) C型肝炎 (Viral hepatitis type C)

病原体：C型肝炎ウイルス

感染経路：血液や体液との直接接触

潜伏期：2週間～6ヶ月

症状：全身倦怠感、食欲不振、黄疸などが見られるが、症状は軽い

診断：血液中の抗原、抗体の検出、病原体の核酸検査 (PCR)

治療：抗ウイルス薬とインターフェロン

放置すると多くがキャリア化して、慢性肝炎、肝硬変、さらに肝癌へと進展することがある。

(11) 後天性免疫不全症候群

(Acquired immune deficiency syndrome (AIDS). エイズ：HIV/AIDS)

病原体：エイズウイルス

感染経路：血液や体液との直接接触

潜伏期：平均10年程度

症状：感染成立の2～3週間後に発熱、頭痛などのかぜ様症状が数日から10週間程度続き、その後数年～10年間ほどの無症候期に入る。放置すると、免疫不全が進行し種々の日和見感染症や悪性リンパ腫などを発症する。

診断：血液中の抗体、抗原、遺伝子の検出、病原体の核酸検査 (PCR)

治療：抗HIV薬

放置すると慢性的に進行し、死に至るが、近年治療による改善・延命が進んでいる。

以上、日本で発症している性感染症を紹介しましたが、日本全国で梅毒患者は2022年には、初の1万人超となったと国立感染症研究所の報告を11月2日の朝日新聞⁽⁶⁾に掲載しています。一番多く感染しているのが男女ともに20代の人です(2022年10月現在)。梅毒は、感染力がとて高くて、1回の性交渉での梅毒感染率は約20%といわれています。感染すると、性器やおしり(こうもん)、口にしこりができたり、からだにブツブツがあらわれたりします。そのあと、いったん症状が消えるので、治ったと思ってしまって、気づくのが遅れてしまうことがあります。

そのまま放置してしまうと、脳の病気や心臓の病気などのこわい病気の原因になります。突然からだにブツブツができたら、梅毒の検査をしましょう。

以上、最近問題になっている性教育問題を取り上げました。読者の方々からそれぞれの立場で若い人々に人生を楽しく豊かにするにはという視点からこの問題を捉えて頂ければ幸いです。

参考資料

- (1) 文部科学省の中学校学習指導要領(平成29年告示)
- (2) 2021年1月27日の朝日新聞記事
- (3) 2022年10月4日の朝日新聞記事
- (4) 「14歳からの生物学」(オランダのサリー・ヒル著) 松田良一(東京大学名誉教授・東

- 京理科大学教授)・岡本哲治(広島大学名誉教授・東亜大学教授) 監訳(2020年9月白水社出版)
- (5) 公益財団法人・性の健康医学財団 ホームページ
- (6) 2022年11月2日の朝日新聞記事

Sex Education in Schools of Japan

Sanenori NAKAMA

University of East Asia, Faculty of Medical Technology,
Department of Medical Engineering
Course of Veterinary Nursing
E-mail:nakama@c-able.ne.jp

Summary

Recently, there have been revealed that sex education in schools of Japan is behind in advanced countries. In the guideline for sex education for junior and high schools from Ministry of Education, Culture and Science of Japan, it talks about how sperm and ova meet, however the process such as sexual intercourse means nothing. Nowadays, the information about sex is flooding, and young women's pregnancy before marriage without their correct birth control and sexual diseases are becoming great problems in her mental, physical, and economical fields. The author proposes that the correct and practical sex education in schools is urgent issue.

Eleven kinds of sexually transmitted diseases are listed as follows: 1) Syphilis 2) Gonorrhea 3) Genital chlamydiosis 4) Genital herpes 5) Condyloma acuminatum 6) Trichomonas vaginalis infection 7) Pthirus pubis (Hair lice) infection 8) Genital candidiasis 9) Viral hepatitis type B 10) Viral hepatitis type C 11) Acquired immune deficiency syndrome (AIDS).

Keywords: Japan, school, sex education, sex transmitted diseases

